

a 学校教育目標	心豊かに かしくく たくましく	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 【ビジョン】(自校の将来像) 志を抱き、自らその実現に向けて考え、行動できる未来の創り手の育成 組織の一員としての自覚をもち、新たな教育活動の創造に向け、協働できる教職員が創る学校
----------	-----------------	----------------------	--

評価計画				自己評価					改善策		学校関係者評価						
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善策	l 評価						
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ				
確かな学力	主体的で探究的に学ぶ児童を育成する。	基礎・基本の学力の定着と思考力・判断力・表現力の育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善</li> <li>・算数科の単元テスト知識・技能平均70点未満、思考・判断・表現平均50点未満 0人</li> <li>・漢字検定・計算検定テスト合格</li> <li>・児童アンケートの肯定的評価</li> </ul>	前年度平均よりアップ	全53.6 113 算52.8 理51.8		103 94 100	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NRTの結果、全体としては前年度を1.5ポイント上回っている。特に、国語科は昨年度も受検している全ての学年で数値が向上している。</li> <li>・単元テストの結果、全体の約9割の児童が、「知識・技能」の平均点が70点以上、「思考・判断・表現」の平均点50点以上である。また、2~4年生については、全員が目標値を上回っている。</li> <li>・漢字計算検定の結果、合格(90点以上)になった児童は漢字47人計算48人であった。NRT1-2レベルの児童における当初比100%以上の人数は漢字名9名、計算9名中名であった。</li> <li>・児童アンケートの結果、全体としては全ての項目で肯定的評価が80%を上回っているが、「友達のを聞くとき、自分の考えと同じところやちがうところを見つけようとしていたり、そのわけを考えたいがためにいる。」「今日の学習のまとめを自分の言葉で書くことしたり、学習の振り返りをしたいと思っています。」の項目で1学年ずつ、「話し合いでは、考え方の間違ったところやちがうところを見つけたり、見つけたことからもついでに考え方やまがまがしいか考えたりしています。」「今日の学習のまとめがなかったかどうかを、練習問題で確かめようとしています。」「今日の学習で分かったことをこれから使おうとしたり、新しい課題を見つけようとしていたりしています。」の項目で2学年ずつ80%を上回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度から取り組んできた「百マス作文」に、継続して取り組む。</li> <li>・児童中心の授業展開を進め、ノート指導の充実を図る。また、ノート交換をし、良いノートの掲示をするなど、授業改善に取り組む。</li> <li>・2学期の「くんぐんタイム」では、NRTで苦手だった内容についてアシストシートを活用して復習及び多様な部分を見直ししていく。</li> <li>・漢字計算検定を引き続き行い全ての児童が漢字や計算の技能を習得し学習の土台作りを目指す。</li> <li>・NRTの評価1及び2の児童を抽出し、漢字や計算技能の伸びを見る化し、継続的に支援していく。</li> <li>・問題の解き方や考え方がわかるノートづくりを中心に、児童が主体的に学ぶ授業改善に引き続き取り組む。振り返りの場面では、「分かったこと」だけでなく、「分らなかったこと」も書けるように指導し、学習成果を自己評価できる力をつけていく。</li> </ul>	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>○漢字検定計算検定の取組がよい。基礎学力の定着につながるよう、合格するまで取り組み、自己の成長が分かるようにされているのがよい。達成感や有用感を感じさせるよう引き続き取り組んでほしい。</li> <li>○課題から分析して、基礎の問題や活用の問題等、様々なパターンの問題に取り組みさせていくことはよい。個別の支援が必要な児童に対して学校体制で支援をしていくことを引き続きお願いする。</li> <li>・R8の取組を継続し、小中連携しながら、児童に思考力を育てていきたいと思います。</li> <li>○1年生の児童からICT機器を積極的に活用しており、児童が選択しながら活用できる力がついてきているのがよい。</li> </ul>			
				豊かな心・健やかな体	心も体もたくましい児童を育成する。	認め合い支え合い、自ら伸びる、ともに伸びる児童を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちで決めた目標の達成に向けて粘り強く取り組むことを通して、自己有用感や集団の意識を向上させる。</li> <li>・成長の木</li> <li>・生活チェック</li> </ul>	80%	100%	125%	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケートの結果、「前の自分と比べて良くなったことやできるようになったことがある」と自覚する自己肯定感の割合は100%であり、昨年度比+21%であった。「めたっこチャレンジにめあてをもって取り組んでいる児童」は100%、「成長の木に良くなったことやできるようになったことを書いている児童」は98%であり、日々の取り組みが自己肯定感を高めていることが伺えた。保護者アンケートの結果でも、「わが子は、自分の良いところを知っている」の肯定的評価は85%であり、目標を上回ることでできた。</li> <li>・児童アンケートの結果、「体を動かすのが好き」と答えた児童の割合から肯定的結果が85%であり、目標値と比較をすると+5%であった。</li> <li>・新体力テストでは、昨年度の課題であった「20mシャトルラン」「50m走」「ボール投げ」の結果と今年度の結果を比較してみると、「ボール投げ」は、改善していた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「成長の木」「めたっこチャレンジ」気持ちのよいあいさつの平均達成率は99.3%で目標を達成できているので、この3点については取り組みを継続し、高い自己肯定感を維持していく。</li> <li>・「ハイパーQ-U」の結果分析を行い、集団作り等の取組に生かしていく。月曜日の朝学習は、学級ソーシャルスキルを取り入れ、自己有用感や集団の意識を向上させていく。</li> <li>・児童の「体を動かして、楽しかった」という意欲を維持、持たせるために「アクティブ・チャイルド・プログラム」を取り入れていく。</li> <li>・体育委員会を中心に外遊びの奨励を行い、児童会を中心に、朝や休憩時間にレクリエーションを行う機会を作り、楽しく運動する機会を増やす。</li> <li>・なわとびやドッジボール、持久走などに全校で取り組み、運動をする機会を増やす。</li> </ul>	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童の自己肯定感が高い。集団作りの取組がよい。掲示等でも自己の成長が分かるようになってきている。先生方が一人一人の児童をよく見て、認めていることもわかる。</li> <li>○「成長の木」の取組は、自己の成長や友達の成長を認め合える集団作りにつながっているよい取組である。引き続き取り組んでほしい。授業中も含めた学校教育すべての場で一人一人を認め合う温かい雰囲気づくりがされている。</li> <li>○各教室、大変よく整理整頓され、掲示物も学びの足跡が分かるよう工夫されており、心豊かになるものであった。</li> </ul>
								信頼される学校	学校と保護者・地域及び関係機関との双方向の信頼関係を構築する。	地域に関わられた信頼される学校の構築を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働き方改革の推進校務支援システム等、ICT機器を活用し、スケジュール管理の徹底を図る。</li> <li>・各部、各委員会の組織的な取組を進める。</li> <li>・PDCAサイクルを充実させる。</li> </ul>	100%	100%	100%	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週水曜日を定時退校日と設定し、また、業務の内容を見て、週末などを定時退校日とした。定時退校は100%実施できている。</li> <li>・職員の各月の時間外勤務の上限45時間を超える職員は0人で、時間外が一番多い職員も、40時間以内であった。</li> <li>・校区の歴史的建造物への校外学習や、本谷川の水辺教室、そばづくりのゲストティーチャー招聘など地域人材や地域教材を活用した学習を行った。保護者アンケート「わが子は地域のことを学習したり、地域の方と一緒に活動したりするのを楽しんでいる」の肯定的評価が74.4%であった。学年によって1学期の予定がなかったこともあるので、引き続き様々な場面で計画的に実施していく必要がある。</li> <li>・ICT機器を活用した情報発信や、すぐるによる学級だより・学校だよりの配信を定期的に行っている。保護者アンケート「学校だより、学級だより、すぐる等で学校・学級の様子が伝わった」の肯定的評価は88.4%であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水曜日の定時退校が習慣化しているので、引き続き、優先順位を考えた業務ができるよう職員同士で声掛けをしたり、業務の備りがないようにしたりするなど、取組を進めていく。</li> <li>・準備委員会等で職員の意見を出し合い、周知、徹底するなど業務改善を進めていく。</li> <li>・計画的にそれぞれの学年の発達段階にあった地域学習を実施していく。地域とのつながりのある学習の際には、すぐるや学校だより等で適宜情報を発信していく。</li> <li>・学級だよりについて偏りのないよう、回数や内容について職員で交流し、子どもたちの様子を積極的に発信していく。</li> </ul>

【j:自己評価 評価】  
A: 100% (目標達成) B: 80% (ほぼ達成) <100  
C: 60% (もう少し) <80 D: (できていない) <60

【l:学校関係者評価 評価】  
イ:自己評価は適正である。ロ:自己評価は適正でない。  
ハ:分からない。